

- 本号の内容 第3次長野県オルグ.....p1
ドキュメンタリー映画『ここから』、レイバー映画祭で上映.....p1

第3次長野オルグ (7/15~16) 県内労組・団体12か所に支援要請

7月15～16日の2日間、長野県内オルグがおこなわれた。平和フォーラムの構成組織、長野県労組会議(松澤佳子議長。13単産、12地区労組会議、3万人)の企画で、2019年4月の第1次から数えて3回目になる。

支援集会・意見交換会も3か所で

今回は、全日建の小谷野書記長の「関西生コン事件」現状報告に加えて、関生支部の組合員、松尾聖子さん(全日建近畿地本執行委員)が自身の弾圧と解雇の実体験を話ながら支援を訴えた。

訪問したのは、自治労長野県本部、長野県労組会議、長野地区労組会議、長野市職労、長野市水道労組、国労長野地本、



長野市職労・長野水道労組のみなさんと(組合事務所で7/15)

長野市職労、長野市水道労組のみなさんと(組合事務所で7/15) 信毎書籍労組、国労車両所支部、私鉄アルピコ交通労組川中島支部、須坂市職労、長野電鉄労組、林野労組中部地方本部。各地で激励カンパを頂戴した。

15日夜は長野県労組会議と長野地区労組会議の共催で支援集会。16日午前には松本市で松本市職労・現業労組、松本地区労組会議の単組代表と懇談会、午後から「21世紀の労働運動研究会」の講座で報告と質疑。全日程を県労組会議の松澤議長らが同行してくれた。

また、各組合で、近く完成のドキュメンタリー映画に対する期待の声寄せられた。秋以降、上映運動がとりくまれることになりそうだ。

待望のドキュメンタリー映画

『ここから ～「関西生コン事件」と私たち』

関生支部の組合員って、どんな人たちなんだろう――。

その問いに真正面から答えるドキュメンタリー映画が完成間近。試写版がレイバー映画祭で上映される。(詳細は2ページを参照)

●レイバー映画祭

7月23日(土)10:00～17:00 (『ここから』の上映は14:00の予定)

東京・全水道会館4F大会議室

主催・問合せ・予約 レイバーネット日本 TEL03-3530-8588 FAX03-3530-8578

ネット予約 <https://labornetjp.jimdofree.com/>

ドキュメンタリー映画

『ここから ～「関西生コン事件」と私たち』



映画『ここから ～「関西生コン事件」と私たち』は、「関西生コン事件」の真っ只中で生き、働き、たたかう組合員の姿を描く。レイバー映画祭で上映されるのはその試写版で60分。(写真は、映画の一場面)

監督は、『フツの仕事がしたい』でドバイ映画祭で最優秀ドキュメンタリー賞を受賞した土屋トカチ。制作は全日本建設運輸連帯労働組合。

映画祭の広告には次のような紹介文が掲載されている。

「襲いかかる警察。つぎつぎに逮捕される組合員。ストライキやビラまきなど当たり前の労働組合活動が、日本ではいつから組織犯罪とされるようになったのか。無法地帯と化した生コン業界で、組合員という理由だけで仕事も奪われていく——。逮捕された組合員のべ81人、組合脱退者500人以上。戦後最大規模の組合弾圧事件＝「関西生コン事件」は、仲間と家族を引き裂き、強さを誇った組合は壊滅的危機に陥った。だが、踏みとどまって、苦しみながら、もがきながら、ここから運動を立て直そうとする確かな胎動がある。関生支部の真実と現在を、ひとりの女性ドライバーを中心に描き出す。」

秋から全国各地で上映運動がとりくまれる予定だ。